

# 海もよろこぶ夏休み！ ～ビーチクリーンin上五島～

袋を2枚（燃えるごみ用・燃えないごみ用）お渡しします。

分別ルールを守って、ビーチクリーンにご協力ください。

※対象は海岸に漂着したごみのみです。家庭ごみはご遠慮ください。

## ＼ ゴミ分別のルール /



- × 拾わないでください
- ・ 生き物や生物の死骸（魚・鳥・動物など）
  - ・ 危険物（注射器・ガラス片など）
  - ・ 大型ごみ

## ⚠ 安全に活動するために

- ・ 滑りにくい靴でご参加ください（サンダル不可）
- ・ 軍手の着用をおすすめします
- ・ 暑さ・天候にご注意いただき、熱中症対策もお忘れなく
- ・ 安全のため、可能な限り2名以上での活動をおすすめします

## 🗑️ ゴミ拾いが終わったら

- ・ 拾ったゴミは、五島うどんの里内「新上五島町観光物産協会 事務所」までお持ちください。
- ・ ご自宅などでゴミを処分された方は、ゴミ拾いをした様子がわかる写真をスタッフにご提示ください。→ → →

→ 鯨賓館ミュージアムチケットと  
交換いたします。（有効期限なし）

## 🕒 チケットの引き換えについて（2025年8月31日まで）

交換場所： 新上五島町観光物産協会 事務所  
（五島うどんの里内）

営業時間： 8:30～17:00

※必ず営業時間内にお越しください。

電話番号：0959-42-0964

▶ 売店入り口ではなく  
事務所側からお願いします。

## ＼ こんな写真でOK /



## ■ 美しい海岸に押し寄せる「漂着ごみ」

日本は四方を海に囲まれた島国であり、海洋ごみの影響を受けやすい環境にあります。中でも、約600の島々と全国2位の海岸線（約4,200km）を持つ長崎県は、対馬暖流や季節風の影響もあり、漂着ごみがたまりやすい自然条件がそろっています。その結果、県内には年間およそ9,000トンもの海洋ごみが流れ着いており、全国的にも深刻な状況です。新上五島町の蛤浜海水浴場も例外ではありません。実は、県内で2番目に漂着ごみの多い場所であり、美しい景観のかたわらで、漂着ごみが次々と押し寄せているのが現状です。日々、ボランティアの方々による清掃活動が行われていますが、それでもなお、漂着ごみは絶えません。自然の恵みと、私たちの暮らしが交差する――そんな「海の現実」が、静かにこの場所に広がっています。

### 長崎県のマイクロプラスチック 漂着ランキング

（公益財団法人 環日本海環境協力センター調べ／令和5年度）

- 1位 対馬市白浜海岸
- 2位 新上五島町蛤浜海水浴場
- 3位 五島市田尾海岸
- 4位 壱岐市里浜海水浴場



## ■ 海ごみって、誰のごみ？

「海のごみは、海で出たもの」と思われがちですが、実はその約8割が、私たちの暮らしから流れ出たものだとされています。レジ袋、ペットボトル、発泡スチロール、…ポイ捨てや風で飛ばされたごみ、適切に処理されなかったごみが、川を伝って流れ出し、やがて海へとたどり着くのです。

海岸に打ち上げられた「漂着ごみ」、海原を漂う「漂流ごみ」、海底に沈む「海底ごみ」、これらを合わせて「海洋ごみ」とよびます。多種多様なごみがありますが、その中でもプラスチック製品は自然界での分解が困難なため、半永久的に残ってしまうことから、海洋環境や生物・生態系への影響が大きいものと懸念されています。世界では毎年約800万トンものプラスチックごみが海に流出し、このペースで進めば2050年には魚よりプラスチックごみの量が多くなると予想する調査結果もあります。

## - 海にとけない「マイクロプラスチック」 -

マイクロプラスチックとは、直径5ミリ以下の細かいプラスチックごみの総称です。もともとは大きなプラスチック製品だったものが、太陽の熱や紫外線、波の力などによって砕け、海の中を長期間漂うようになります。一度海に広がったマイクロプラスチックは回収が難しく、自然に分解されることもほとんどありません。

さらに問題なのは、その小ささゆえに、ウミガメや海鳥が誤って飲み込み、命を落とす事故が世界中で起きていること。また、マイクロプラスチックは水中の化学物質を吸着する性質があり、まだ完全には解明されていないものの、そのプラスチックを食べた魚介類を、私たち人間が口にすることで、人体への影響も懸念されています。

### 海洋生物

プラスチックを  
大量に誤飲

### 人体

食物連鎖を経て  
体内に蓄積  
健康被害

### 経済

ごみの回収、  
処理費用負担  
景観破壊による  
観光業への打撃

海洋ごみは次々と漂着します。

「拾う」ことは、小さな一歩かもしれませんが、ごみを拾うことで、自然の豊かさや大切さに気づききっかけになるかもしれません。五島の海岸に立ち、その“美しさ”と、そこにある“課題”の両方を感じてみてください。



日本海には、1立方メートルあたり約3.7個のマイクロプラスチックがあるとされています。これは、北太平洋の約16倍、世界の海の平均と比べると、なんと約27倍にもなります。

